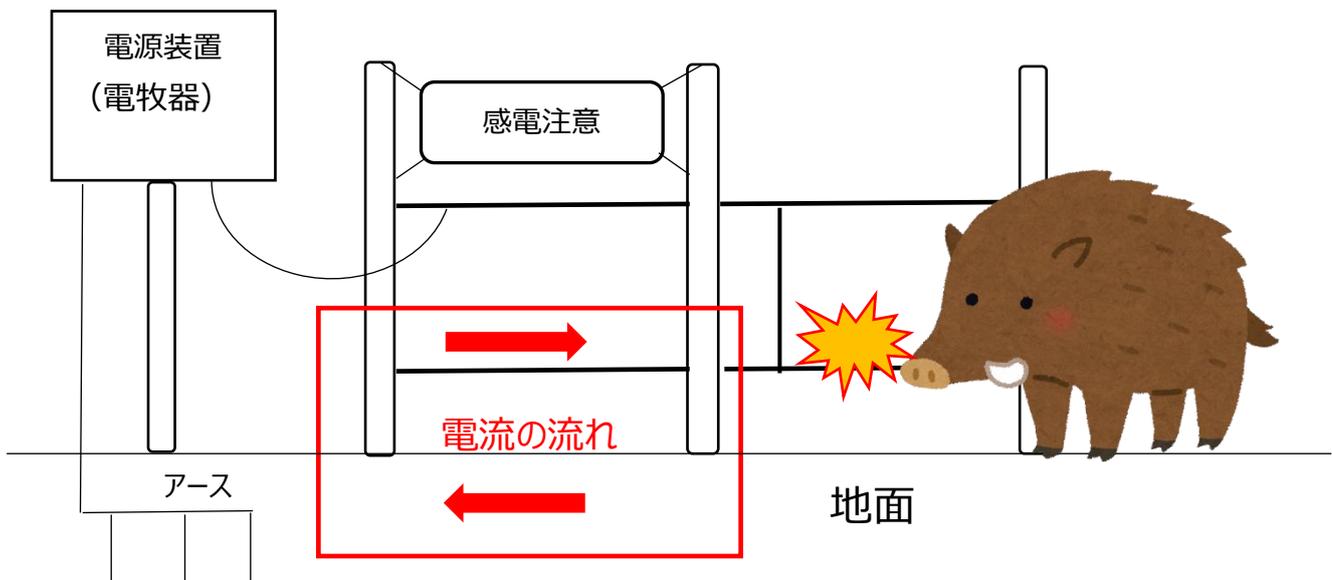


電気柵設置について

電気柵はイノシシ等の野生動物の侵入防止に有効な方法です。効果的な設置や適切な維持管理を行きましょう。

《電気柵の仕組み》

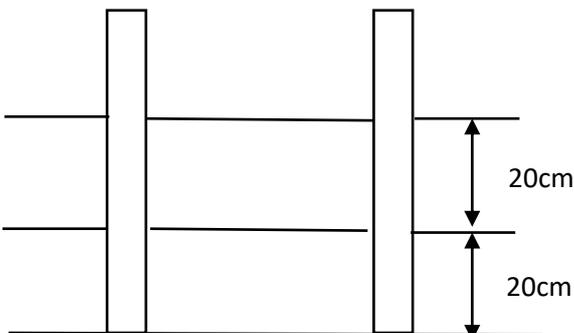


● 電気柵は、野生動物が電線に触れたときに電気ショックを与えて痛みを学習させる心理柵です。体毛が薄く電気を通しやすい**鼻先や口をいかに電線に触れさせるか**が重要です。

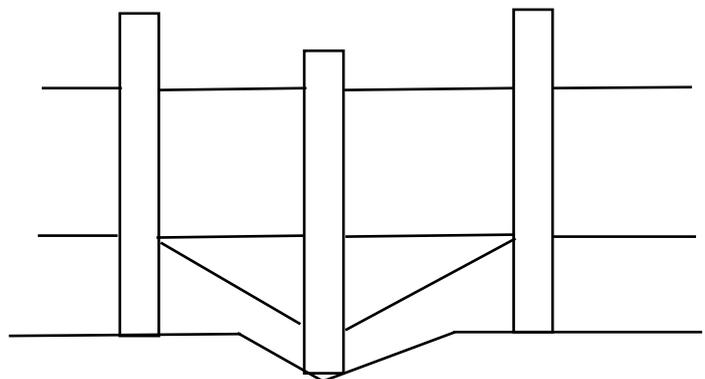
● 野生動物に電気ショックを与えるためには、「**電牧器→電線→野生動物→地面→アース→電牧器**」と電気が流れる回路が必要です。

《電線の間隔》

※イノシシ用は1段目の地上高を20cm、2段目は40cmに保つ。



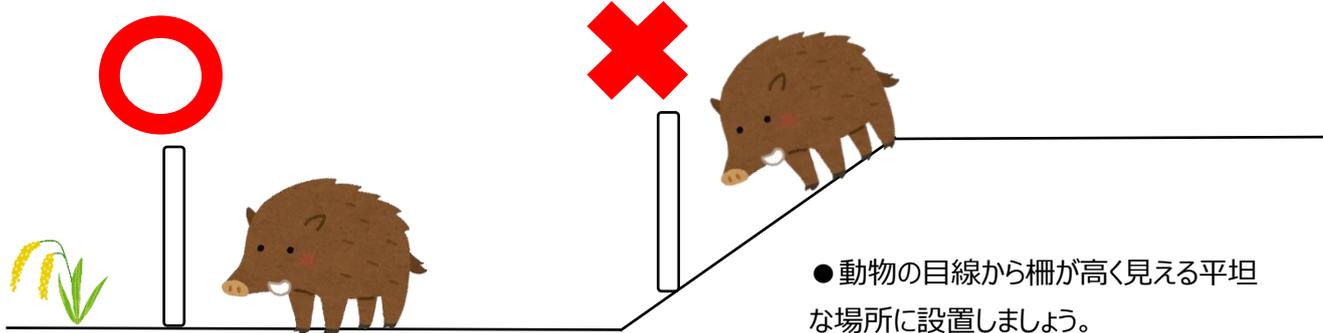
窪地に設置する場合は、隙間を作らないようにしましょう。



● 舗装道や石垣等は電気の通りが悪く、十分な電気ショックが与えられません。**舗装道等から50cm以上離して**、電気柵を設置しましょう。

《設置時の注意》

斜面は避けて平坦な所に設置するようにしましょう。



- 柵を作物に近づけすぎない。

● 動物の目線から柵が高く見える平坦な場所に設置しましょう。

● 設置や維持管理が容易な場所を選びましょう。

《日常点検のポイント》

日常点検は主に以下の点について、確認してください。

- 雑草が伸びて電線にふれていないか？
- 電線が地面に触れていないか？
- 倒木や落下した枯れ枝が電線に触れていないか？
- 電線が切れていないか？

《維持管理のポイント》

定期的に電気柵の周囲の草刈りやバッテリーの交換を行きましょう。

- 柵の周囲の草刈りや除草剤散布を定期的に行う。
(特に夏季は頻度を多くして、雑草が電線に触れないように管理しましょう。)
- 電源装置のバッテリーは残量を確認しながら定期的に交換しましょう。
- 電気柵は常に通電させておく。「通電させない電気柵を放棄しない」(作物がない時期に通電させないなら片付けましょう。)

《その他》

- 農地を電気柵で囲っても、柵の外にエサとなるようなものがあれば、イノシシを呼び集め、餌付けしているのと同じです。集落や周辺農地に野菜の残渣等のエサとなるものが残っていないか点検しましょう。